

トピックスニュース『病院木質化プロジェクト』

topics
news

病室に道南杉やトドマツなど木のぬくもりを 森町・製材業者の「病院木質化プロジェクト」

函館中央病院経営企画課主任 須摩 直樹 さん



外科病棟の個室に導入された道産木材を使用した「病室ユニット」。

函

館中央病院（橋本友幸病院長）は「病院木質化プロジェクト」の一環として行われている「病室ユニット」を導入した。このプロジェクトは森町の製材業「ハルキ」が、病室の内装に道産の木材を使うために立ち上げたもので、渡島総合振興局や札幌市立大学、事務機器大手の内田洋行など産学官が参加し、研究、開発を進めてきた。病室ユニットは道南杉やトドマツなど針葉樹を特殊な工法で張り合わせた厚さ2〜3cmのパネルを使用する。パネルは病室の壁面に合わせて設置する組み立て式で、約1日で病室に設置可能だ。

プロジェクトは社会的な必要性の高さが評価されるなど、2016年のウッドデザイン賞林野庁長官賞を受賞した。道内の人工林の多くは伐採時期を迎えようとしているが、人口減少などから住宅向けの利用が停滞。消費拡大を目指した新たな販路として病院での活用を目指している。

同病院では昨年12月末に個室1室（外科病棟）に導入したが、経営企画課主任の須摩直樹さんは「パネルを設置する際には電動ドライバー以外、大きな音も発生することはない、両サイドの患者さんも入室したままで工事は終わりました」と話す。「病室ユニットの導入に合わせて床頭台2台の外側にもパネルを貼り、イメージを統一するためテーブルと椅子も旭川家具に取り替えました」。

病室は白い壁が定番というイメージがあるが、木のぬくもりがある病室に入院した患者や家族からは「木の香りと温もりがとても心地よかった」「ホテルのような雰囲気です。安心して入院することができた」などの感想が聞かれるなど評判は良かった。

プロジェクトでは病室に導入することから、血液や細菌、ウイルスなどが付着した場合の対応などさまざまな課題にも取り組んできた。道立総合研究機構の林産試験場での実証試験では、従来のビニールクロスなどとの比較で、衛生面も問題のないことが確認された。

病室ユニットは同病院で、実際に入院した患者や職員などからの意見を参考にしながら製品化を目指していく。